

恋愛・結婚・家庭

本誌記者



結納金なし、披露宴なしで結婚式をあげた四川省渠至県の農村青年葉芳珍さんと楊基華君。村の人たちも大賛成。

一九七四年一月号の本誌に一枚の写真をのせたことがある。公園の一角でのどかに休日を楽しむ何組かの

向」として批判されたのである。

林彪、「四人組」が羽ぶりをきかしていたころには、善悪の基準というものがなかった。青年が、恋愛し、結婚し、家庭をもつ——こういったごく普通のことでも彼らの糾弾と圧迫の対象になったのである。それで、ある時期には、映画も芝居も小説も詩も、すべて、このけんのない「立入禁止区域」へは入ろうとしなかった。

「四人組」は何本かの「模範劇」の

中国人には愛情がない？

「四人組」が「ブルジョアの傾向」ときめつけた、ちょうどその頃、わたしたち「人民中国」編集部では、にぎやかな結婚式を三度おこなった。三組とも恋愛結婚で、同僚たちの心からの祝福のなかで結ばれていた。

いま、「人民中国」では、ごく最近配属されてきた若い三人をのぞいて、ほかはすべて家庭を持っていく。その大半が、同じ学校、同じ職場で知りあい、何年か交際したあと結婚にふみきった人たちである。

M君とNさんは、ともに、本誌を印刷している外文印刷所の労働者だ

中に模範をしめした。そこに出てくる男女は、どれも同じ類型でつくられたような「英雄人物」で、この型からはみ出て個人的な生活や感情を吐露したりしようものなら、たちまち「英雄人物」を冒瀆するものとして非難された。

——歴史の流れにさからって策動したものは、みにくい末路をみせ、人民の生活は再び自分の主体的な尺度にしたがって、水が流れるように、自然に前へ流れはじめた。

したが、同じころいっしょに工場から選ばれて、大学で日本語を勉強し、卒業後またそろって、わたしたちの編集部へ配属された人たちである。ここではいちばん若い夫婦で、もう三つになるかわいい女の子がいる。

Yさんとご主人は、同じ大学で四年間いっしょだったが、卒業後も同じ報道関係の職場に配属された。中年組のひとつで、二人子供さんがいるが、同じ理想をみざしているも仲がよい。とりたてて変わった夫婦ではないが、この人たちがわたしたちの代表だとも言える（今月号二十四